



光受寺通信

H.24・2月1日

発行者 光受寺

今年の冬はことさらに寒さを感じる。伊吹おろしが凍るように冷たい。それでも庭では、すっかり春の準備が整っているようだ。梅のつぼみは赤く膨らみ始め、においすみれの葉っぱも顔を出し始めた。

さて、今年はどうな人生が展開されるのだろうか。私は、毎日が新しく、初めて歩く道を歩んでいるようなそんな思いで、今を生きようと思っている。見慣れた風景で今日は何が見られるのか、どんな人に会えるのか、どんな感動が待っているのか？とワクワクしながら…。つらく悲しいことの多い人生も、こんな思いで生きていけば、少し明るくなっていくように思えるのだ。

先日、通信をきちんとファイルしてくださっているご門徒さんがあることを知った。たったそれだけのことなのに、忘れられない一日となった。



除夜の鐘 (200名ほど)
門の外までいっぱいでした。
ありがとうございました。



完成間近の山門。
松の門の香りが届きましたか？
彫刻もきれいですよ。



光受寺懇親会風景

一月の第2土曜日。

勉強会を懇親会に切り替え、「おでん」を囲んでのひと時でした。お酒もチョッピリ。

17名の皆さんの素顔が素敵でした。

今年で2年目開催ですが、恒例行事になりそうです。

来年参加してくださいね。

昔から言い伝えられている諺に「災害は忘れた頃にやってくる」があります。昨年は、千年に一度の災厄の年といわれ、それも天災と人災が交わった大災で多くの人の気持ちを暗くしました。大震災、大津波、原発事故は、私の生きている間は起きないだろうと思っていた安心は崩れ、リスクとともに生きていることを改めて思い知らされ、いままでも当たり前前に感じていた普通の生活が、本当にありがたく感謝の念が強まりました。感謝という言葉は、大事ですが忘れがちな言葉であると思います。自分の思い通りに進んでいる時は、感謝の言葉を周りの人にも述べますが、逆に、自分には都合の悪いように物事が進むと感謝の言葉ではなく、自分を責めたり人を罵ったりして、拳句の果てには、自分の思いを通そうと神仏に手を合わせます。感謝の言葉の使い方も、自分の都合が変わってしまうこともあります。朝、夕、仏さまの前で手を合わせていますが、それは感謝することを表し、自分の都合ではなく、今、生きていることに對する大きな感謝の表れではないかと思えます。さまざまな情報が飛び交う現代の社会、どうかすると先行きへの不安で日常のことが疎かになってしまっていることがあります。日常の小さなことでも、もう一度、自分が感謝しなければいけないところを探し出し、自分の心から当たり前という言葉を出せるだけ消し去り、感謝の言葉を多くしたいと思っています。

感謝に思う

大江靖久

真宗大谷派出版部より発行されている『真宗』
一月号に光受寺が紹介されました。

今月のお寺

79

光受寺

岐阜県大垣市墨俣町墨俣二一番地

住職 柴間邦守

活気あるお寺に

岐阜県大垣市墨俣町。豊臣秀吉出世の地として知られ、秀吉が一夜で築城したとされる墨俣城（一夜城）の南西にある光受寺を訪れました。



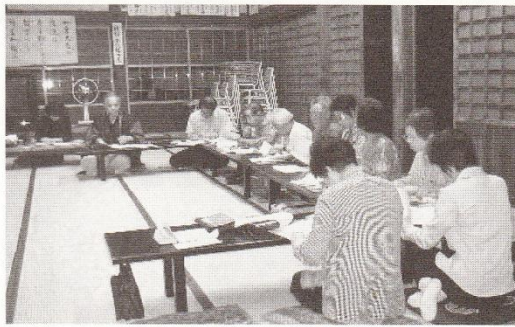
光受寺境内と飛龍梅

光受寺には樹齢七十年の枝垂れ梅があり、根元の太さと、立ち上がり、のねじれの美しさで有名です。その姿は、今まさに飛び立とうとする龍に似ていることから、「飛龍梅」と命名されました。毎年二月下旬の見頃を迎えると、お参りの方を含め、観光客が県内外から訪れ、その数は数千人だ

とも言われています。

住職の柴間邦守さんは、枝垂れ梅を縁として少しでも真宗の教えにふれていただける機会になればという願いから、寺報やリーフレットを本堂に置いたり、坊守さんと協力し書道展を開くなど、少しでもお寺との関わりを持つていただけるような工夫をされています。

また、永代経、報恩講という法要行事の時だけでなく、日頃からご門徒さんやそうでない方にもお寺に足を運んでもらい、共に真宗の教えを聞いていこうというスタン



光受寺勉強会（枝垂れ梅サークル）

スで寺院の活動に取り組みれています。毎月第二土曜日には、十九時から「光受寺勉強会（枝垂れ梅サークル）」を開き、「正信偈」を中心として学ぶ歩みが続けておられます。会は、始めてからもう三年以上になり、教化ビデオの鑑賞や、御旧跡を訪ねる日帰り旅行、真宗本廟奉仕団としての上山などを行っているそうです。また、時には会員の方が蓮如忌に参加された時の映像などをパソコンでスクリーンに映し出し、講師となつて、説明され

たりもするそうです。現在会員は十二名ほどですが、長年熱心に聴聞されてきた方、この勉強会がきっかけで推進員になられた方、初めて親鸞聖人の教えを聞くとういう方も含めて、自由に日頃の思いや悩みなどを話せる場となっています。寺報「光受寺通信」は毎月発行され、ご門徒さんの記事や住職からご門徒さんへのインタビュー記事の他に、住職のつぶやきコラムが掲載されています。主役（メイン）はあくまでご門徒と決めての寺報となっているように、時には寺まで「今月号をいただきたい」と言つてわざわざ取りに来られる方もいらっしゃるそうです。

また、ホームページも開設され、沿革、年中行事、教化活動、枝垂れ梅の情報をはじめ住職のブログもあり、寺報も最新号からバックナンバーまで全てが閲覧できます。遠方で直接届けられないご門徒さんにもぜひ読んでほしい、光受寺の情報を知っていただきたいと願つてのホームページのようです。住職は、「寺に人の姿が見えないのは寂しい。静寂さとは異なるさびれたイメージは悲しいものだ」「単なる観光寺であつても虚しい」と口癖のようにおっしゃいます。ご門徒と共に歩む中で、本来のあるべき寺の姿を模索していきたいの思いには、熱いものを感じました。

光受寺ホームページ <http://koujuji.com/>

（岐阜教区通信員 里雄敬意）



1月30日

本堂改修工事につきましては、山門、お内陣を除いてほぼ完成いたしました。最終的には2月中旬となりそうです。何とか梅の時期には間に合いそうです。

門信徒の皆様には大変なご負担をおかけいたしております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。